

岡崎市議会議長 様

支出番号

1

会派名

自民清風会

代表者名

杉浦 久直

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 旅 行 報 告 書

令和3年 10月 25日提出

活動年月日	令和3年4月15日～16日		
氏名	杉浦久直		
用務先 及び 内 容	1 4月15日	用務先	全国市町村国際文化研修所（大津市）
		内 容	令和3年度第1回市町村議会議員特別セミナー
	2 4月16日	用務先	全国市町村国際文化研修所（大津市）
		内 容	令和3年度第1回市町村議会議員特別セミナー
	3 月 日	用務先	
		内 容	
	4 月 日	用務先	
		内 容	
備 考			



調査研究（研修）視察報告書

報告者：杉浦 久直

視 察 日	令和3年4月15日（木）～16日（金）
視 察 内 容	令和3年度 第1回 市町村議会議員特別セミナー
視 察 者	杉浦久直
1日目 <講義1> [人口減少・ポストコロナ社会のデザイン] 講師：京都大学こころの未来研究センター 教授 広井 良典 氏 概要：これから進んでいく人口減少社会では、若い世代の「ローカル志向」や、首都圏の急速な高齢化の中で、AIの活用により持続可能性を地方分散に見出すことができる。今はウォークアブルなスマートシティを多極的に構築していくための、政策転換の分岐点にある。日本は人口減少・高齢社会のフロントランナーであり、グローバル化の先に、ローカルな経済循環、共生による持続可能な福祉社会を目指すべきである。  <講義2> [コロナ禍のピンチをチャンスに変える自治体になるためには？] 講師：奈良県生駒市 市長 小紫 雅史 氏 概要：大阪のベッドタウンである生駒市では、コロナ禍は、現役世代に地域活動の大切さ、地元の魅力を再発見してもらい、地域活動に参加してもらうチャンスと捉え、自治体3.0のまちづくりとして、市民と行政とが共に汗をかく協創の考えのもと、先進的な取り組みを進めている。その一つプロ人材の採用では、兼業、副業、テレワークを可とするなど働きやすさの工夫により、1,000名を超える応募の中から、12名の採用に至った。そこから、コロナで傷んだ市内飲食店応援のプレミアム付き先払い電子チケットやオンライン修学旅行といった事業が生まれた。 2日目 <講義3> [これからのスマート農業～新しい地域農業の創生～] 講師：北海道大学大学院 農学研究院 教授 野口 伸 氏 概要：農業のスマート化、ロボット化について豊富な事例の紹介。農業の担い手の減少、高齢化の現状に対し、スマート化することで、儲かる産業に変えることができ、その実現は近づいている。そのための人材が各地域に必要であり、生産から、流通・消費のスマート化へと発展する。中山間、野菜、果樹などのスマート化はこれからであるが、地域の土壌、気候など地域の違いは大きく、地域に適合したスマート農業はその地域で創っていく必要がある。 <講義4> [令和の戦国武将 今、女将が地域と共に立ち上がる] 講師：さぎの湯温泉旅館 竹葉 女将 小幡 美香 氏	

概要：島根観光 PR 大使も務める女将が、足立美術館に隣接する自身の旅館「竹葉」を人との繋がり、ご縁を大切に、どう経営してきたか。また、コロナで傷んでいる観光業であっても、SNS などの利活用により、沈み込むのではなくコミュニティづくり元気発信により、地域を元気にし、心も経済も豊かにしていきたい。また、地方議員には、ご縁を大切に、いろいろなことに興味関心を持ち、前例にとらわれず未知なる道を作っていただきたい。

〔感想・岡崎市への反映〕

講義 1 に関して、人口減少は国難といえる問題であり、今回のコロナ禍でさらに加速されたかのような感がある。そうした中、地域分散型の持続可能な社会作りの重要性をあらためて強く認識させられた。本市がこの愛知県の三河地域において、中枢中核都市として地域の持続可能な発展のけん引役となるために、本市の特徴である、歴史と風土をさらに活かしたまちづくりに取り組んでいくことの重要性和、そのための若者支援施策について考えさせられた。

講義 2 に関して、奈良県生駒市長の独特の魅力に引き付けられた。官僚出身の市長であるが、アイデアと実行力を兼ね備えている市長であり、地元出身でなくても、プロの行政の経営者としてまちづくりを行なっている様子が感じられた。今回のコロナ禍でも、ピンチをチャンスにということでの、取り組みはとても参考となった。本市も積極的な外部人材の登用を行なっていくべきであると感じた。

講義 3 に関して、「下町ロケット」のモデルでもあり、技術監修も行なったという講師の、ひたむきさを感じさせる農業のスマート化への取り組みと、それが花開こうとしている事例を様々な事例から感じさせられた。本市では、矢作、六ツ美地域の大規模農地と、額田などの中山間地域の農地があるが、いずれも将来的にスマート化していくことでの産業としての将来性を感じることができた。そのためにも、電波を含めた基盤整備の重要性を感じることができた。

講義 4 に関して、どじょうすくい女将としてメディアでも有名な女将の元気をもらえる講義であった。また、コロナ禍で苦しむ全国の旅館業などについても、あらためて考えさせられた。地域の魅力、日本の魅力を自身が媒体となり発信していく能力に感嘆すると共に、地方議員に向けた提言を苦言でなくエールと受け止め、これからの議員生活に取り組んでいきたいと感じさせられた。

また、今回は新型コロナ感染症の小康状態期での JIAM 研修であった。感染症対策下での研修という面でも参考となった。